

大船渡青年会議所創立趣意書

すでに新聞紙上等で、大船渡市に青年会議所創立の動きが一関青年会議所諸兄の指導により着々と準備の段階にあったことはご承知のことと存じます。

当大船渡市は、臨海工業都市としての使命を担い、昭和 27 年合併以来着々と都市的発展を見るに至り、単なる県南の陸の孤島的存在であった当市も、今や他地域から一躍クローズアップされるに至りました。

然るに、今日に至るまでに当市に明日の世代の担手となるべき若手経営者の相互の親睦と研修の場がなかったということは、甚だ遺憾であり、複雑・多様化するこれからの社会における青年経営者の社会的責任を自覚する組織の場が無いことは、地域社会発展のためにも大きな損失と思われまます。

申しますに、当地方は豊富な産業資源に恵まれながらも、交通輸送路が未整備で、その開発がまだ取り残されているところもあり、他都市との交流も、刺激も少なく文化・経済・社会のあらゆる面で、中央及び他都市に接する機会も少ない感があります。

特に、現在のめまぐるしい経済情勢の変化の中で、激動する社会情勢は当市においても企業の近代化、経営の合理化が強られるなど、中小企業をとりまく環境はきびしさを加え、その対処が急務とされておる現状であります。

現在、発展途上にある当市も、いまや開港場の指定もうけ、全国 84 港の開港場に仲間入りすることもでき、また開港と同じに検疫港の指定もうけ、今や外国船が直接出入港できる文字通りの国際港として、めざましい躍動をつづけております。

国土総合開発法を基にした一連の開発構想のもとにおける大船渡市の役割は非常に大きく、臨海工業港としての使命を果すべく各種の基盤整備が急速に進められ、新企業誘致についての万全の体制が確立されております。

特にも、既に日産農林株式会社をはじめとする数企業の工場誘致にも成功し、更に昭和 45 年までには 11 企業 12 工場の誘致が予定されております。

このような時期に、次の新しい世代を担う我々青年が、依然として過去の踏襲に甘んじたエゴイズムによる損失は、我々個人のそれはもとより地域的にも国家的にも大なるものと確信するものであります。

現在、我々が当面している諸問題について同じように悩み、考え迷って来たであろう日本青年会議所傘下 360 余の地域青年会議所諸兄と交流を深め、親睦をはかり、その貴重な体験を教訓として、自己研修を通じてこれからの大船渡市経済の担手として、若い世代の力を求め、大船渡市業界の一層の発展に貢献することが我々青年に課せられた責務と考える次第であります。

このたび、一関青年会議所諸兄の指導により、大船渡青年会議所の創立のはこびとなりましたことは、遅きに失した感がありますが、大船渡青年会議所の設立は地域の要求によるものであり、時代の必然によるものと信じております。

我々の青年会議所が互に恥をかき合うことを通じて自己研修の場となると共に、当市の産業経済のこれからのために、スマートなゲバ棒となれる人間の集いの場となることを心から願うものであります。

以上をもって設立趣意書といたします。